

日時

平成26年7月1日(火) 13:30~14:30

会場

東北大学 医学部 臨床講義棟 1階
第一ゼミナール室

講師

加藤基浩氏
(中外製薬株式会社 前臨床研究部)

薬物動態研究の重要性 —創薬から臨床まで—

「薬物動態」、これは言葉の通り「クスリ」の「体の中での動く様」です。薬は口から飲んで胃、小腸を通り、大部分は小腸で吸収され、肝臓と肺を通して心臓に行き、全身に運ばれ、その後代謝・排泄により消失します。消化管から循環血まで届いた薬物の割合をバイオアベイラビリティといいます。創薬におけるヒット化合物は、小腸からの吸収(溶解性を含む)、代謝、肝臓における初回通過代謝の3つのバリエーションにより、低いバイオアベイラビリティを示すものが多くあり、候補選定の大きなカギの1つになっています。

本講演では、この3つのバリエーションについて紹介させていただくとともに、「IN VITROからIN VIVOへ」「動物からヒトへ」という橋渡し研究としての薬物動態研究についても紹介させていただきます。

薬物動態の国内企業研究者の第一人者で、Webの「薬物動態の部屋」はつとに有名な加藤氏の講演を聞ける機会です。皆様のお越しをお待ちしております。

【問合せ先】 <http://www.pford.med.tohoku.ac.jp/>

創薬等支援技術基盤プラットフォーム事業・東北大学制御拠点 事務局(022-717-7809)